

第9回 E S T 普及推進フォーラム実施概要

E S T (Environmentally Sustainable Transport: 環境的に持続可能な交通) の普及促進を図るため、E S T の取組みについて講演やパネルディスカッション等で検討する「第9回 E S T 普及推進フォーラム」を開催した。また、「第7回 E S T 交通環境大賞」の表彰を本フォーラムの中で行った。基調講演で低炭素なコンパクトシティ・プラス・ネットワークの実現に向けた考え方や実践方法について学び、受賞団体講演により優良事例を共有した後に、パネルディスカッションにて低炭素なコンパクトシティ・プラス・ネットワークを実現するためのE S Tのあり方について検討した。

当日は、E S T・交通環境対策について関心を持つ方々を中心に113名が参加した。第7回 E S T 交通環境大賞の結果が平成28年1月25日の河北新報に記事として掲載されたほか、フォーラム、表彰式の模様が2月25日の交通毎日新聞で記事として掲載された。

地域の交通環境対策に関する取組み事例を発掘し、優れた取組みの功績や努力を表彰するとともに、その取組みを広く紹介し、普及を図るため、本フォーラムの主催者が平成21年度に創設した表彰制度。

日時: 平成28年2月22日(月) 13:30 ~ 17:10

会場: ルポール麹町「ロイヤルクリスタル」(東京都千代田区平河町2-4-3)

主催: E S T 普及推進委員会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

後援: 国土交通省、環境省、警察庁、一般社団法人日本自動車工業会、
公益社団法人日本バス協会、一般社団法人日本民営鉄道協会、



← 開催風景

広報チラシ



「第9回 E S T 普及推進フォーラム」開催ご案内
低炭素なコンパクトシティ・プラス・ネットワークの実現に向けて



【写真】左上: 地下鉄有楽町線(有楽町)、右上: 通勤バス(豊成バス)、右: 3000系車両(東海電気鉄道)、右下: 交通エコロジー・モビリティ財団(東京)市下: ビカチュウ電気バス(電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創出協議会)、右下: なんかいのあつぱり推進協議会(南海電気鉄道)

E S T (Environmentally Sustainable Transport: 環境的に持続可能な交通) の普及促進を図るため、E S T の取組みについて講演やパネルディスカッション等で検討する「第9回 E S T 普及推進フォーラム」を開催します。

また、「第7回 E S T 交通環境大賞」[※]の表彰を本フォーラムの中で行います。

基調講演で低炭素なコンパクトシティ・プラス・ネットワークの実現に向けた考え方や実践方法について学び、受賞講演により優良事例を共有した後に、パネルディスカッションにて低炭素なコンパクトシティ・プラス・ネットワークを実現するためのE S Tのあり方について検討します。

E S T・交通環境対策の最新情報入手し、優良事例を共有した上で、現状の課題を検討する絶好の機会となりますので、皆様の参加をお待ち申し上げます。

※ 地域の交通環境対策に関する取組み事例を発掘し、優れた取組みの功績や努力を表彰するとともに、その取組みを広く紹介し、普及を図るため、本フォーラムの主催者が平成21年度に創設した表彰制度。

日時: 平成28年2月22日(月) 13:30~17:10 (13:00 受付開始)

会場: ルポール麹町2階「ロイヤルクリスタル」
〒102-0093 千代田区平河町2-4-3

主催: E S T 普及推進委員会、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団

後援: 国土交通省、環境省、警察庁、一般社団法人日本自動車工業会、
(予定) 公益社団法人日本バス協会、一般社団法人日本民営鉄道協会



環境的に持続可能な交通

Environmentally Sustainable Transport

開会挨拶・基調講演

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団、国土交通省、環境省からの開会挨拶のあと、基調講演が行われた。

○ 開会挨拶

岩村 敬 公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団 会長
篠原 康弘 国土交通省総合政策局 次長
小野 洋 環境省水・大気環境局自動車環境対策課長



○ 基調講演

「低炭素なコンパクトシティ・プラス・ネットワークの実現に向けて」

藤原 章正 広島大学大学院国際協力研究科 教授



表彰式・受賞団体講演

基調講演に続き、第7回 EST交通環境大賞の表彰式が行われ、国土交通省篠原次長、環境省小野課長、EST普及推進委員会 太田委員長から各賞授与 及び、太田委員長から審査講評が行われた。
その後、休憩の後、受賞団体から受賞団体講演が行われた。

○ 表彰式

篠原 康弘 国土交通省総合政策局 次長
小野 洋 環境省水・大気環境局自動車環境対策課長
太田 勝敏 東京大学 名誉教授

【大賞 国土交通大臣賞】 仙台市

【大賞 環境大臣賞】 南海電気鉄道株式会社

【優秀賞】 京成バス株式会社

【奨励賞】 秦野市

【奨励賞】 電気自動車等を活用した
伊勢市低炭素社会創造協議会

○ 受賞団体講演

「仙台市の取組み」

鈴木 博之 仙台市都市整備局総合交通政策部公共交通推進課 主任

「南海電気鉄道株式会社の取組み」

遠北 光彦 南海電気鉄道株式会社 取締役社長



パネルディスカッション 「低炭素なコンパクトシティ・プラス・ネットワークの実現に向けて」

コーディネーター：	太田 勝敏	東京大学 名誉教授
パネリスト：	藤原 章正	広島大学大学院国際協力研究科 教授
	会沢 努	京成バス株式会社 営業部長
	保坂 富士雄	秦野市都市部 参事 兼 公共交通推進課長
	朴 恵淑	電気自動車等を活用した伊勢市低炭素社会創造協議会 会長 (三重大学人文学部・地域イノベーション学研究所 教授)
	軸丸 真二	国土交通省総合政策局環境政策課地球環境政策室長
	本田 卓	環境省水・大気環境局自動車環境対策課 課長補佐

【概要】

「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」、即ち、地域公共交通と連携してコンパクトなまちづくりを進めることは、人口減少・高齢化が進む我が国において、地域の活力を維持し、国民の安全・安心を確保するうえで、極めて重要である。

「国土のグランドデザイン2050～対流促進型国土の形成～」(平成26年7月)においても、地域構造を「コンパクト」+「ネットワーク」という考え方でつくり上げることの必要性が指摘されている。また、コンパクトシティ・プラス・ネットワークの実現を支援するため、都市再生特別措置法の一部改正法(平成26年8月)、地域公共交通活性化再生法の一部改正法(同年11月)がそれぞれ施行され、立地適正化、まちづくりと連携した面的な公共交通ネットワークの再構築のための新たな仕組みが設けられ、国内各地において検討が開始されている。

コンパクトシティ・プラス・ネットワークは、その実現自体、運輸部門の低炭素化に寄与する方向性ではあるが、環境配慮をより一層進める観点から、「低炭素な」コンパクトシティ・プラス・ネットワークの実現に向けた課題や配慮事項を検討する必要があると考えられる。

このパネルディスカッションでは、前半に、優秀賞・奨励賞受賞団体の取組み内容をご発表いただき、基調講演、大臣賞受賞団体講演の内容も参考にしながら、低炭素なコンパクトシティ・プラス・ネットワークの実現に向けた取組みの現状や課題を確認した。後半は、抽出された課題を踏まえ、低炭素なコンパクトシティ・プラス・ネットワークのあり方や方向性について検討した。

